

樋が鼻

佐用町上三河

上三河村の北のはずれ、ここを流れる千種

川は、川の両岸が岩盤で狭まっている。水は底知れぬほど青く、渦を巻いて流れる。

道路から反対側の岸には、今も田んぼの余り水が落ちる所がある。そこから、こちらの側の岸へ大きな樋が架けられていた。そして、上三河と中三河両村の五十町歩、一千石の田を、この樋の水で養っていた。この淵を『樋が鼻』と呼ぶ。



樋が鼻の光景（佐用郡佐用町上三河）

嫁に行くなら

三河千石

並ぶすげ笠

やがて来なされ

ここで米買うて

様をみたさに

と、歌にも唄われた。大杉で造った樋はよく

磨かれ、子供が水とともに流れて遊んでいた

といい、明治十三年頃まであったとか。

三河へおいで

樋の水

大町小町

米買いに

利はないけれど

会いたさに